

令和3年度 校内研修計画

平戸市立生月中学校

1 はじめに

(1) 昨年度の取組について

『つながり』で育む『主体的・対話的で深い学び』の実現～協働・横断・連携を意図した教育活動を通して～」を研究主題に、各教科で協働的な学習形態を実践した。また、学力向上プランでは、ワークシートを活用しながらねらいに即した「書く活動」を重視することを共通の方策に設定した。

(2) 昨年度1月実施の標準学力調査結果

次の表の数値は平均正答率を、学年は今年度の学年を示している。

【観点別】

| 国 語 | | 関心・意欲・態度 | 話す・聞く能力 | 書く能力 | 読む能力 | 知識・理解・技能 |
|--------|-----|----------|---------|-------|-------|----------|
| 2 年 | 本 校 | 68.6 | 75.6 | 59.6 | 62.8 | 74.7 |
| | 平戸市 | 67.3 | 72.1 | 57.6 | 62.0 | 72.2 |
| | 全 国 | 72.6 | 78.6 | 60.7 | 65.6 | 76.3 |
| 3 年 | 本 校 | 71.3 | 62.7 | 67.4 | 57.5 | 75.2 |
| | 平戸市 | 70.2 | 64.3 | 66.0 | 57.0 | 74.7 |
| | 全 国 | 67.2 | 67.8 | 60.1 | 62.2 | 78.6 |
| 数 学 | | 関心・意欲・態度 | 見方・考え方 | 技能 | 知識・理解 | |
| 2 年 | 本 校 | 34.2 | 33.4 | 54.0 | 62.0 | |
| | 平戸市 | 34.1 | 32.7 | 49.9 | 57.7 | |
| | 全 国 | 38.0 | 37.8 | 55.8 | 63.6 | |
| 3 年 | 本 校 | 49.8 | 47.3 | 63.2 | 61.5 | |
| | 平戸市 | 41.0 | 38.0 | 52.9 | 51.3 | |
| | 全 国 | 51.0 | 47.7 | 63.2 | 60.9 | |
| 英 語 | | 関心・意欲・態度 | 表現の能力 | 理解の能力 | 知識・理解 | |
| 2 年 | 本 校 | 75.0 | 65.3 | 67.7 | 68.1 | |
| | 平戸市 | 61.4 | 48.9 | 59.3 | 55.4 | |
| | 全 国 | 68.3 | 57.8 | 63.4 | 61.1 | |
| 3 年 | 本 校 | 64.3 | 43.6 | 64.7 | 51.9 | |
| | 平戸市 | 56.4 | 38.6 | 57.2 | 47.1 | |
| | 全 国 | 57.7 | 42.0 | 59.0 | 52.2 | |

【基礎・活用】

| | | 国 語 | | | 数 学 | | | 英 語 | | |
|--------|---|------|---------|------|------|---------|------|------|---------|------|
| | | 基礎 | 思考力・判断力 | 表現力 | 基礎 | 思考力・判断力 | 表現力 | 基礎 | 思考力・判断力 | 表現力 |
| 2 年 | 本 | 73.0 | 55.6 | 54.7 | 63.4 | 30.9 | 30.2 | 74.0 | 56.6 | 58.8 |
| | 市 | 71.6 | 54.7 | 47.7 | 58.2 | 30.6 | 31.1 | 62.0 | 51.0 | 43.7 |
| | 全 | 74.7 | 59.9 | 58.3 | 64.2 | 36.5 | 33.0 | 67.0 | 54.8 | 54.2 |
| 3 年 | 本 | 72.7 | 65.0 | 27.8 | 63.0 | 52.2 | 36.1 | 62.0 | 57.9 | 40.3 |
| | 市 | 71.8 | 62.2 | 34.5 | 53.4 | 37.3 | 31.8 | 56.2 | 51.2 | 32.8 |
| | 全 | 72.6 | 69.9 | 43.6 | 63.2 | 47.7 | 41.5 | 58.8 | 53.9 | 36.9 |

【特に平均正答率が低いカテゴリー】

| | 2年・国語 | | 2年・数学 | | 3年・国 | 3年・数学 | | 3年・英語 | |
|---|-------|------|-------|------|------|-------|------|-------|------|
| | 書くこと | 記述式 | 関数 | 記述式 | 読むこと | 関数 | 記述式 | 書くこと | 記述式 |
| 本 | 60.0 | 60.3 | 47.2 | 30.2 | 59.4 | 54.3 | 36.1 | 44.8 | 43.1 |
| 市 | 58.2 | 59.8 | 41.5 | 31.1 | 58.1 | 44.2 | 31.8 | 39.9 | 37.6 |
| 全 | 60.7 | 64.8 | 47.5 | 33.0 | 62.9 | 53.6 | 41.5 | 42.9 | 40.9 |

2年生は、国語の書く能力や表現力に、数学は全体的に課題がある。

3年生は、国語の読む能力や表現力に、数学は全体的に、英語の表現力に課題がある。

上の結果を見ると、昨年度の方策を継続する必要性を強く感じる。また、数学の基礎学力を伸ばすために、教科横断的な取組や計算力に特化した指導など、全校・全教科挙げての重点的な方策を行うことも考えられる。

2 二つの考え方と二つの方向性

(1) 今じゃない！

先日NHKテレビを見ていると、埼玉県で教育漫才を実践している小学校の校長先生が出演していた。田畑栄一さんである。先生の言葉が印象的であった。教育は目先のことなく、その子どもの10年後、20年後に役立つようなことでいいのじゃないか。小中学校の時に教わった教師の言葉や経験したことが、その後の人生を左右することがある。

3月、娘の卒業式に小学校へ行った。6年生はわずか5人。5年生の時までは複式学級でもあった。この子たちが進学する中学校には3つの小学校から集まってくる。式後、教室で娘の担任が語った言葉も印象深い。中学校に行くと学級の人数が多くなる。君たちは不利だと言われるが、そうではない。君たちの強みは経験だ。全員がクラブ活動では部長となり、行事では前に立ち、授業では毎回発表した。自信をもって中学校へ行きなさい。

「主体的・対話的で深い学び」を目指して本校が取組んできた協働的な学びこそ、教師ではなく生徒が授業を作り上げる経験である。当然、時には失敗もある。それも経験。次に生かせばそれでよし。それは開発的生徒指導という考え方、方向性にも合致する。「学校は、問題が起きてから対応する対処的生徒指導に終始せず、生徒一人一人に出番を与えて役割を果たさせ、その行動を承認することによって、生徒の責任感や自信を育て、良いところを伸ばしていく開発的生徒指導の実践が大切です。」(倉本哲男)

(2) 今でしょ！

$(3^2 - 1) \div (-2)$ を計算せよ。令和3年度学力検査の数学、第1問である。

この春に卒業したT君、おそらく解けなかったのであろう。第一志望の私立高校のみならず公立高校の後期選抜でも不合格であった。いくつか考えられるが、学力面が大きな要因であったことは間違いない。

教育は、目先のことにも配慮すべきである。では、どうするか。計算力や読解力、文章を書く力など基礎学力の定着を図ること。やはり、授業改善が喫緊の課題である。

先日の新聞報道によれば、来年度から高校では探求学習が重視されるようである。「自分で課題を見つけ、情報収集し、分析し、表現する学習方法で、知識偏重を脱し、課題解決の力を育むねらいがある。」

(3月31日の朝日新聞)

しかし、土台のないところに立派な建造物はできない。

3 研究主題について

(1) 研究主題・・・「分かった!」「できた!」を生徒に実感させる授業づくり

(2) 設定の理由

学校経営方針のスローガンは、「明日も学びに行きたくなる学校」。

部活動や友達とのつながりなど、生徒に学校へ行きたいと思わせる事柄は様々であろうが、学習がその中心となるためには、教師は授業で勝負すると言われている以上、「分かった!」「できた!」と生徒が喜びを味わえる授業を実践することこそ、我々教師の使命であるのは明らかである。

そのため、上に書いた二つの方向性が考えられる。

一つは主体性の育成。協働的な学びを経験させ、自分たちで学習課題を解決した喜びを実感できる機会を提供すること。授業以外でも、様々な場で「生徒一人一人に出番を与えて役割を果たさせ、その行動を承認することによって」自己肯定感を持てるようにすること。そのような経験が学習意欲も高めるはずである。

もう一つは、基礎学力の育成。自分の分からないところ、できないところを自覚させ、他の力も得ながら分かるようになること、できるようになること、その機会を提供すること。ここでも協働的な学びは有効である。

(3) 研究の目指す生徒像

一昨年度に引用した宮沢賢治の言葉をもう一度。

「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」(『農民芸術概論綱要』)。

これにならい、研究の目指す生徒像は昨年度を踏襲したい。

① 他との「つながり」の中で学習活動ができる生徒

② 学んだことを誰にも分かるように説明できる生徒

ちなみに、『学び合い』の学習では、「分かっている仲間を孤独にしない」「分かっているふりして孤独にならない」をモットーにしている。

(4) 研究組織

① 研究部 ……【授業研究部】 研究授業や授業研究会の企画運営、授業改善や家庭学習の指導に関すること。

【学習環境部】 学級力向上や開発的生徒指導に関すること。多様性に関する研修を行い、特別支援教育の観点に立ったユニバーサルデザインの学級づくりを目指す。

② 研究推進委員会 ……校長、教頭、教務主任、研究主任、各研究部長で構成し、各研究部における取組の方向性を検討したり進捗状況を確認したりする。必要に応じて拡大して開催する。

③ 全体会 ……全体授業研究、学力調査結果の分析、学力向上プランの作成など

4 主な研究内容

(1) 授業改善

① 授業では、本時のめあてや学習内容の見通しを視覚的に、明確に示す。

② ねらいに即した「書く活動」を重視する。(ワークシートの活用。定期テストの記述式問題)

③ 協働的な学習を取り入れる。効率的な学びにするために課題設定の工夫、意図的な班構成。

④ 学期末に全教科共通の生徒アンケートを実施する。(授業改善アンケート)

(2) 研究授業

① 研究授業を1人1回、なるべく2学期末までのうちに行う。

② 全体研究授業を2回行い、その際にはKJ法による授業研究会を全員で開く。

③ 指導案は略案でもよい。

(3) 基礎学力タイム

① 1週間に1時間、50分ないし25分で設定する。

② 計算力や読解力など

(4) 教科・領域別のファイルの色

特別支援教育の観点から、右のように全学年統一する。

(5) 家庭学習の充実を目指した指導

(6) 読書活動の推進

(7) 学級力向上プロジェクト

生徒の自主性を育成する手立ての工夫を行う。

(8) GIGAスクール構想への対応

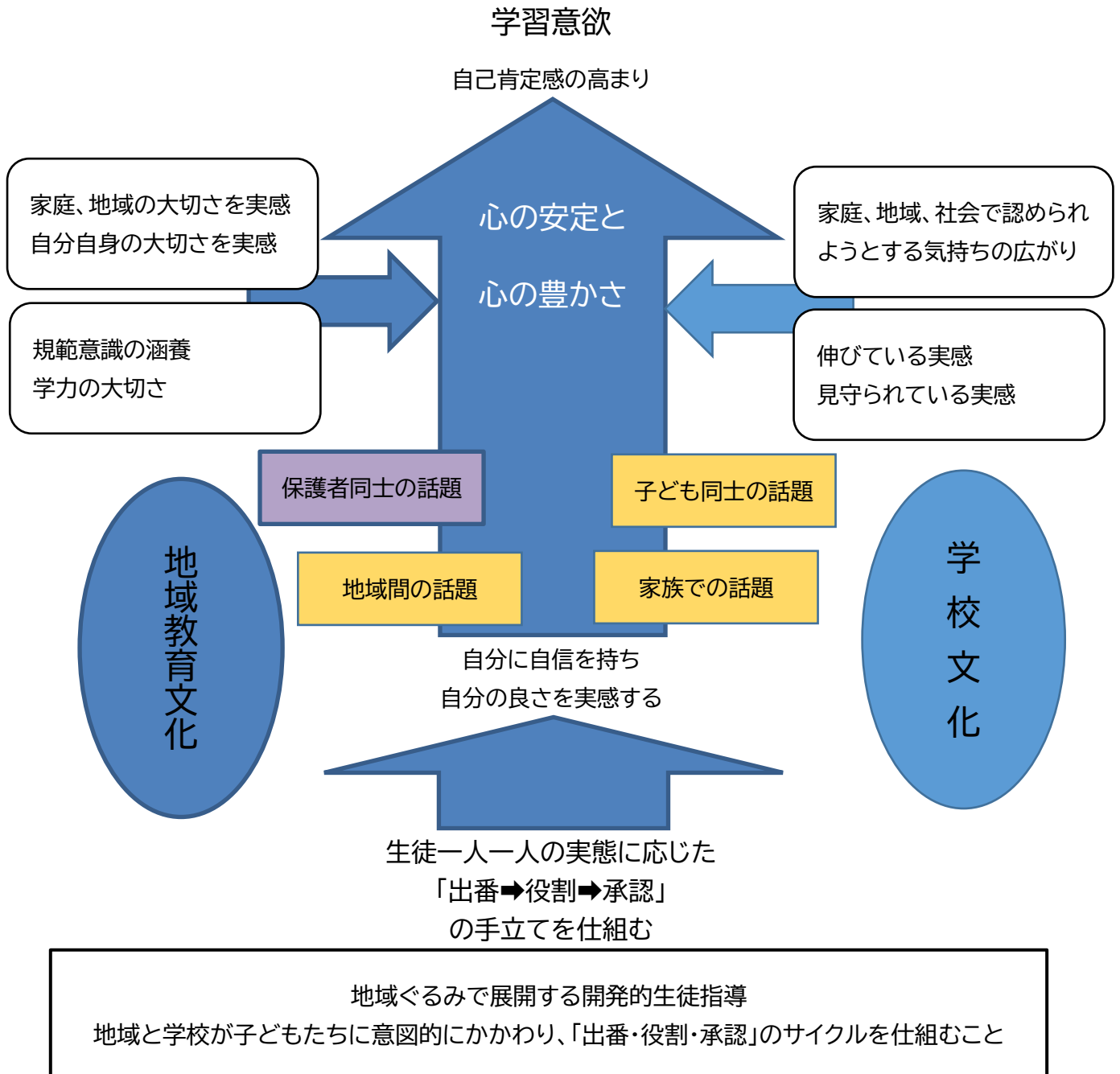
(9) 開発的生徒指導

今年度から実践することは困難なので、来年度実施を目指した研修を進めていく。

| | |
|-----|-------|
| 赤 | 技家、保体 |
| 青 | 社会、理科 |
| 黄 | 音楽、美術 |
| 緑 | 英語 |
| 紫 | 国語、数学 |
| グレー | 道徳、学活 |

5 開発的生徒指導の基本デザイン～自己肯定感の高まりと学習意欲～

次の図は、昨年11月に校内研修へ招いた貞包浩洋先生（佐賀市立鍋島中学校長）の資料による。



6 研究構想図

